

平成 24 年 3 月 1 日

C型慢性肝炎という病気をご存じですか？現在わが国には100人に1~2人の割合で、C型慢性肝炎の患者さん、あるいは本人も気づいていないC型肝炎ウイルスの持続感染者（キャリア）がいると推測され、“21世紀の国民病”とまでいわれています。今回は『C型慢性肝炎』についてお話しします。

● C型慢性肝炎ってどんな病気？

C型慢性肝炎とは、肝炎を起こすウイルス（C型肝炎ウイルス）の感染により、6ヵ月以上にわたって肝臓の炎症が続き、細胞が壊れて肝臓の働きが悪くなる病気です。

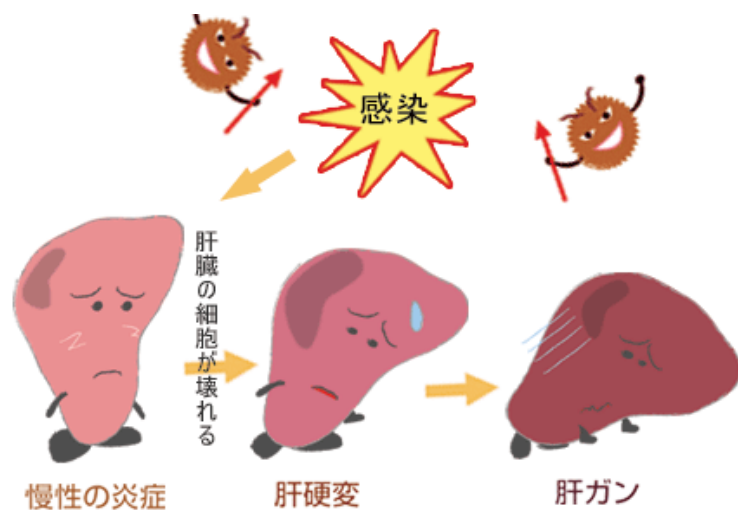


● C型慢性肝炎ウイルスって？

C型肝炎ウイルスは血液を介して感染するウイルスです。感染している人の血液が他の人の血液の中に入ることによって感染しますが、感染力が弱いウイルスなので母子感染や性感染は少なく、空気感染や経口感染はありません。以前は輸血による感染が問題となったことがありましたが、現在は高精度のウイルスチェックが行われているため、安心です。

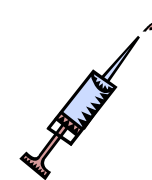
● C型慢性肝炎になると・・・

初期にはほとんど症状はありませんが、放置しておくと、徐々に肝臓の細胞が破壊され、長い経過のうちに肝臓の働きが悪くなります。さらに、慢性肝炎は放っておくと肝硬変や肝がんへ進行しやすく、肝がんの原因の80%はC型慢性肝炎だといわれています。



● 治療

C型慢性肝炎の治療法には、C型肝炎ウイルスを体の中から排除してC型肝炎の治癒を目指す抗ウイルス療法と、肝機能を改善して肝炎の悪化を防ぐ肝庇護療法（対症療法）があります。



● 抗ウイルス（原因療法） ●

従来から、体内の肝炎ウイルス量によって次の2つの治療が用いられてきました。

- ・ インターフェロンまたはペグインターフェロン単剤療法（低ウイルス量）
 - ・ インターフェロン+リバビリン併用療法（高ウイルス量）
- * リバビリンを服用中で妊娠を希望される方は医師にご相談ください。

治療によりウイルスが（一時的にでも）消失した場合は肝がんの発生リスクが低下することが分かっています。ただし、ウイルスの型や量により治療法では薬が効きにくい場合もあります。

最近、新しいC型肝炎治療薬（テラビック）が発売されたことにより、従来の治療では効果が不十分だった人に対しても追加の治療が行えるようになりました。

テラビックは従来の薬とは異なるアプローチで抗ウイルス作用を示し、3剤併用療法（テラビック+ペグインターフェロンアルファ-2b（遺伝子組換え）+リバビリン）は従来の治療法で効果が無かった人や、再発してしまった人にも有効な場合があります。

ただし、服用中に重い副作用が見られることがあります。従来のインターフェロンやリバビリンによる副作用（発熱、倦怠感、貧血など）に加え、**皮膚の症状（全身性の発疹など）**が出た際はすぐに医師にご相談ください。

● 肝庇護療法（対症療法） ●

抗ウイルス療法により十分な効果が得られなかった場合でも、肝臓の働きを助ける薬を使用して肝機能を正常な値に保つことで肝がんへの進展リスクを減らすことが可能です。

- ・ 強カネオミノファーゲンシー（注射）
- ・ ウルソ錠（内服） など

<参考>

- ・ 今日の治療指針 2010
- ・ 田辺三菱製薬ホームページ <http://www.mt-pharma.co.jp/>
- ・ MSD ホームページ <http://www.c-kan.net/>
- ・ C型肝炎と有機ゲルマニウムのお話 <http://www.germaniumnet.com/>